



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年11月12日

上場会社名 カバー株式会社 上場取引所 東
コード番号 5253 URL <https://cover-corp.com>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 谷郷 元昭
問合せ先責任者（役職名） 執行役員CF0兼経営企画室長（氏名） 金子 陽亮 (TEL) 03(6280)4036
半期報告書提出予定日 2024年11月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	17,104	39.3	3,372	46.3	3,301	42.8	2,120	28.0
2024年3月期中間期	12,276	-	2,304	-	2,311	-	1,657	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	34.21	31.68
2024年3月期中間期	27.11	24.75

(注) 当社は、2023年3月期中間期については中間財務諸表を作成していないため、2024年3月期中間期の対前年中間期の増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	27,417	13,323	48.6
2024年3月期	22,713	11,143	49.0

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 13,320百万円 2024年3月期 11,139百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2025年3月期	-	0.00	-	-	-
2025年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,481	20.9	7,300	31.8	7,300	29.8	5,064	22.4	82.85

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 予想1株当たり当期純利益は、予想当期純利益を2024年3月期末の発行済普通株式数(自己株式除く)で除して算出しております。

※ 注記事項

- (1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	62,223,400株	2024年3月期	61,124,200株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	83株	2024年3月期	83株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	61,991,783株	2024年3月期中間期	61,124,200株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当中間期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社はミッションとして「つくろう。世界が愛するカルチャーを。」を掲げ、日本発のエンターテインメント・カルチャーを作り出し世界中のユーザーに広めていくことにより、日本のユニークな強みであるアニメ、ゲームといった文化に関わるクリエイターの活動の場を増やしていくことを目指しております。

当第2四半期累計期間につきましては、9月に販売を開始したトレーディングカードゲーム『hololive OFFICIAL CARD GAME』をはじめとするマーチャンダイジング分野の新商品の販売や、ライセンス/タイアップ分野における案件獲得の進捗が好調であったこと等から売上高及び各利益水準が当社の計画を上回って拡大しました。マーチャンダイジング分野においては諸外国間接税引当金繰入額を特別損失として計上しているものの、純利益水準についても計画を上振れて着地しております。

サービス分野別の業績は、次のとおりです。

配信/コンテンツ分野におきましては、昨年以降デビューした国内外のタレントが着実に人気化していることに加え、音楽を軸とした多面的なメディアへの露出が拡大したことにより、YouTubeのみに限定されない様々な経路からの集客が進捗しました。その結果、同分野の売上高は4,219百万円(前年同期比22.3%増)となりました。

ライブ/イベント分野におきましては、英語圏向けVTuberグループ「ホロライブEnglish」によるライブコンサート『hololive English 2nd Concert -Breaking Dimensions-』やホロライブプロダクション初のワールドツアー『hololive STAGE World Tour'24 -Soar!-』といった海外市場における実績を着実に積み上げました。一方で、昨年度よりも同期間における国内大型ライブコンサートの実施件数は相対的に少なくなりました。その結果、同分野の売上高は1,493百万円(前年同期比10.1%減)となりました。

マーチャンダイジング分野におきましては、前述のトレーディングカードゲーム『hololive OFFICIAL CARD GAME』の売上が想定を上回って拡大したことに加え、小売店販路の拡充が進捗しました。その結果、同分野の売上高は8,810百万円(前年同期比64.3%増)となりました。

ライセンス/タイアップ分野におきましては、年初から推進している営業組織の改革の効果が顕在化し始めており、海外クライアント等を含む取引パイプラインが順調に拡大しました。その結果、同分野の売上高は2,581百万円(同43.2%増)となりました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は17,104百万円(前年同期比39.3%増)、営業利益は3,372百万円(前年同期比46.3%増)、経常利益は3,301百万円(前年同期比42.8%増)、中間純利益は2,120百万円(前年同期比28.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における資産合計は、前事業年度末より4,704百万円増加し27,417百万円となりました。これは主に、マーチャンダイジング分野における取引量拡大等に伴い商品の増加1,800百万円及び未収入金の増加940百万円があったこと、現金及び預金の増加1,646百万円、メタバースサービス「ホロアース」開発に伴うソフトウェア仮勘定を中心とした無形固定資産の増加1,070百万円があった一方で、売掛金が1,011百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末より2,523百万円増加し14,093百万円となりました。これは主に、マーチャンダイジング分野におけるEC販売の取引量拡大等に伴い前受金が3,282百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は、前事業年度末より2,180百万円増加し13,323百万円となりました。これは主に、中間純利益の計上により利益剰余金が2,120百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1,646百万円増加し、10,312百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動により獲得した資金は2,903百万円(前年同期は2,787百万円の獲得)となりました。これは主に、資金の減少要因として棚卸資産の増加1,808百万円、法人税等の支払額1,076百万円及び未収入金の増加949百万円があった一方で、資金の増加要因として前受金の増加3,282百万円、税引前中間純利益2,840百万円の計上及び売上債権の減少1,011百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動により支出した資金は1,315百万円(前年同期は2,975百万円の支出)となりました。これは主に、メタバースサービス「ホロアース」開発等に伴う無形固定資産の取得による支出955百万円、スタジオ備品及び本社備品等の有形固定資産の取得による支出310百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動により獲得した資金は59百万円(前年同期は増減なし)となりました。これは、新株予約権の行使に伴う株式の発行による収入であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、中長期戦略として①付加価値の高いIPの開発とファンベースの確立、②コマース展開と先行投資、③メタバースサービスの展開の3段階の事業拡大戦略を掲げ、持続的な成長を目指してまいります。2025年3月期の業績見通しにつきましては、2024年5月13日に発表した通期業績予想から修正をしております。詳細につきましては、2024年10月29日公表の「2025年3月期第2四半期（累計）業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,666	10,312
売掛金	3,498	2,487
商品	1,001	2,801
仕掛品	-	7
前払費用	379	366
未収入金	793	1,733
前渡金	240	245
その他	232	214
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	14,798	18,157
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	2,200	2,355
工具、器具及び備品 (純額)	1,645	1,764
建設仮勘定	215	-
有形固定資産合計	4,062	4,119
無形固定資産		
特許権	6	5
商標権	37	60
ソフトウェア	244	359
ソフトウェア仮勘定	2,161	3,094
無形固定資産合計	2,449	3,520
投資その他の資産		
関係会社株式	146	146
出資金	-	51
差入保証金	960	960
繰延税金資産	262	433
その他	33	28
投資その他の資産合計	1,402	1,619
固定資産合計	7,914	9,259
資産合計	22,713	27,417

(単位:百万円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,283	1,798
未払金	356	107
未払費用	1,121	1,054
未払法人税等	1,184	937
前受金	5,115	8,397
預り金	154	100
賞与引当金	312	277
諸外国間接税引当金	-	450
その他	78	3
流動負債合計	10,608	13,127
固定負債		
資産除去債務	961	965
固定負債合計	961	965
負債合計	11,569	14,093
純資産の部		
株主資本		
資本金	973	1,003
資本剰余金		
資本準備金	970	1,000
資本剰余金合計	970	1,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	9,196	11,317
利益剰余金合計	9,196	11,317
自己株式	△0	△0
株主資本合計	11,139	13,320
新株予約権	3	3
純資産合計	11,143	13,323
負債純資産合計	22,713	27,417

(2) 中間損益計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	12,276	17,104
売上原価	6,309	8,021
売上総利益	5,966	9,083
販売費及び一般管理費	3,661	5,710
営業利益	2,304	3,372
営業外収益		
受取利息	0	0
受取和解金	-	49
為替差益	6	-
その他	0	2
営業外収益合計	7	52
営業外費用		
支払和解金	-	32
為替差損	-	86
その他	-	4
営業外費用合計	-	123
経常利益	2,311	3,301
特別損失		
減損損失	-	11
移転損失	60	-
諸外国間接税引当金繰入額	-	450
特別損失合計	60	461
税引前中間純利益	2,250	2,840
法人税、住民税及び事業税	514	890
法人税等調整額	79	△170
法人税等合計	593	719
中間純利益	1,657	2,120

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	2,250	2,840
減価償却費	194	299
減損損失	-	11
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△22	△35
諸外国間接税引当金の増減額 (△は減少)	-	450
受取利息	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	1,767	1,011
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△272	△1,808
未収入金の増減額 (△は増加)	△415	△949
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,087	△485
未払費用の増減額 (△は減少)	△106	△208
前受金の増減額 (△は減少)	1,078	3,282
その他	124	△426
小計	3,505	3,979
利息の受取額	0	0
法人税等の支払額	△717	△1,076
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,787	2,903
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,079	△310
無形固定資産の取得による支出	△732	△955
資産除去債務の履行による支出	△45	-
関係会社株式の取得による支出	△140	-
出資金の払込による支出	-	△55
差入保証金の減少による収入	21	-
その他	-	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,975	△1,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	-	59
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	59
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△189	1,646
現金及び現金同等物の期首残高	7,793	8,666
現金及び現金同等物の中間期末残高	7,603	10,312

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。